

総領事公邸における新潟県産日本酒紹介の夕食会

平成23年12月
在香港日本国総領事館

8月9日、当館は、香港の政財界関係者や流通業者等を総領事公邸に招き、新潟県産日本酒を紹介する夕食会を開催しました。

この夕食会は、同県酒蔵関係者が産品PRのために当地を訪問した機会に行ったもので、酒蔵代表の3名が食事に同席し、新潟清酒に関するプレゼンテーションや食事中にサーブされる同県産日本酒について説明を行う等の取組を行いました。御参考までに概要を御紹介します。

【夕食会の概要】

夕食会には、トミー・チュン(張宇人)香港立法會議員、スティーブン・イップ香港ジョッキークラブ専務理事、日本酒利酒師で香港人で唯一「酒侍」の資格を有するルイス・ホー氏のほか、当地のホテル、流通業界関係者が参加しました。

はじめに、公邸を訪れたゲストに対して、カクテルとして「純米梅酒」が振る舞われました。隈丸在香港総領事挨拶の後、小林尚・武蔵野酒造常務より、資料とDVD上映によって、新潟県の概要(観光含む。)と新潟清酒に関するプレゼンテーションが英語で行われました。

続いて、食堂に席を移して食事が始まりました。公邸料理人が考案した和食メニューに合わせた形で酒蔵から持ち込まれた4種類の新潟県産日本酒がサーブされ、同席した酒蔵3社の代表者(小林常務のほか、市島健二・市島酒造社長、尾畑留美子・尾畑酒造専務)がそれぞれの銘柄の特色について英語で分かりやすく説明しました。来客は説明を聞きつつ、清酒のボトルを手取るなどして、大吟醸、原酒、にごり酒等のそれぞれの味の違いや日本酒と和食のマッチング等を楽しんでいました。

【夕食会を開催しての感想】

そもそもこの夕食会は、(株)うぶすな海外展開事業部関係者と上記の酒蔵代表が外務省を訪れ、日本酒の販路開拓事業を目的として、新潟県日本酒製造業中国販路開拓事業(平成22年度地域中小企業海外販路開拓支援事業(地域企業立地促進等事業費補助金):経産省施策(佐渡市共催・新潟県後援))の一環で香港を訪問する際、当館も協力した形での日本酒PRの場を持ちたいとの依頼があったことを受けて、企画されたものです。当館としては、先方の希望に極力適うべく、日本酒や和食に関心を有する当地立法會議員や財界関係者、当地流通業者に声を掛け、公邸で夕食会を開催する運びとしたものです。

出席者の多くは日本酒に対して既にある程度の知識を有していましたが、サーブされた新潟の日本酒を味わいつつ、同席した酒蔵関係者に対して様々な質問を熱心に行っていました。日本酒は銘柄毎にそれぞれ味わいが異なること、それぞれの銘柄とマッチしやすい料理があること、瓶やラベルの意匠が美しいこと、酒蔵毎に異なる複数銘柄を産し、その中には酒蔵でしか購入不可能な銘柄もあること、酒蔵巡りの旅の可能性等の話題が出席者の興味を引いたようです。中には、日本酒の銘柄リストに酒の情報や味の印象をいちいち書き留め、それぞれのラベルを写真に撮ったり、更には新潟観光等についても関心を示して質問する出席者もいました。

当館としては、地方民間企業とタイアップしたこのような機会は、日本文化の大きな一分野である日本酒の在外PR、日本企業支援の一貫としての在外公館の公邸利用という意義に留まらず、食文化分野における地方連携をも促進し、新潟県、信越地方の観光推進等にも繋がる可能性があるとの印象を持ちました。

以上